

朝倉市同和問題啓発強調月間講演会

日時・場所

トーク & コンサート

「心に熱と光を求めて」

～差別（いじめ）は麻薬、
人権教育は心の特効薬～

7月6日 水

ピーポート甘木
（大ホール）

講師

親子デュオ
フラットワールド

中山 洋一さん
中山 賢一郎さん

開場 18時30分～

開演 19時～

入場無料
手話通訳あり
託児所完備



福岡県久留米市出身の親子。父・洋一さんは、久留米市の被差別部落出身で、少年時代から貧困と差別の中で挫折を経験。愛する女性に背を押され、一念発起し猛勉強。人権バンド「やじろべえ」、ソロ活動を経て、親子デュオ「フラットワールド」を結成。歌や語りを通して、人権社会確立のため親子で奮闘中。世の中が愛と優しさで満ち溢れ、笑顔の花が咲くことを願って活動している。

第11回朝倉市人権作品コンクール作品募集

- 募集内容…人権問題全般に関する作品
- 募集部門…文章（作文・手記）、標語、短歌、詩、ポスター、缶バッジデザイン
- 応募資格…市内に居住または通勤・通学している人
 - (1) 成人の部（大学生・高校生を含む）
 - (2) 中学生の部
 - (3) 小学生の部（一部の部門では高・中・低学年別）
 - (4) フリーの部（学年・年齢不問）
- 応募方法…市人権・同和対策課と各地区コミュニティセンター等に備え付けの応募要項をご覧ください。ホームページ「くらしの情報」の「人権啓発」からもダウンロードできます。
- 募集期間…7月1日（金）～9月16日（金）
- 結果発表…10月下旬に入賞者に通知
- 表彰…入賞者には図書券、応募者全員に参加賞を進呈。最優秀賞受賞者は12月に「人権を考える朝倉市民のつどい」で表彰します。
- 応募先…朝倉市人権・同和教育推進協議会事務局（〒838-1302 朝倉市宮野1997 朝倉市人権・同和対策課内）に郵送または持参ください。FAXは不可。
- 応募規定
 - ・入賞者は「広報あさくら」で発表し、作品は「人権を考える朝倉市民のつどい」等で展示紹介します。
 - ・応募作品は返却しません。
 - ・応募作品は、「人権作品集」などに掲載し、「差別をなくし人権を守る」啓発活動に活用します。
 - ・本人の作品でないと判断できる場合、審査の対象としません。



お問い合わせ先

市人権・同和対策課（☎52-1174）

7月は「同和問題啓発強調月間」です

同和問題をはじめとする人権問題を解決するためには、一人ひとりが人権問題を正しく理解し、人権の意義や人権尊重の重要性について正しい認識を持つことが必要です。

このため、福岡県および各市町村では、県民一人ひとりの理解と協力を得るために、7月を「同和問題啓発強調月間」と定め、この期間中に各種の啓発活動を集中的に実施しています。

この機会に、さまざまな人権問題を自分自身の課題として捉え、人権について考えてみましょう。



同和問題…それは出身を理由とした、いわれなき差別！

日本には、自分の能力や人間性に関係なく、生まれた場所やそこに住んでいるという理由だけで、結婚に反対されたり、就職できなかったり、日常生活をおくる中で不当な差別を受けるような深刻な人権問題が存在しています。これが『同和問題』です。

同和問題は、過去の封建的身分制度の成立にともなって、人々の社会生活に差別が形成され、その根深い差別意識や偏見が解消することなく、現代に引き継がれている我が国固有の重大な人権問題です。

すべての人々は、性別、国籍、障がいのあるなしにかかわらず、お互いの多様性を認め合い、繋がり合って暮らしています。

同和問題について、私たち一人ひとりが正しく理解し、自分自身の問題として捉え、解決に向けて努力していきましょう！

身元調査…「しない！させない！許さない！」

朝倉市では、不当な差別につながる身元調査について「しない、させない、許さない」運動の一環として、7月の同和問題啓発強調月間の期間中、職員が「身元調査お断わりワッペン」を着用しています。

本人の能力や適性に関係ないところで、人が判断され、幸せが奪われてしまう身元調査を、あなたの「許さない」という気持ちと行動でなくしていきましょう。



第10回 (平成27年度)

人権作品コンクール【文章部門】成人・高校生の部 入賞作品

ありがとう

朝倉高等学校

二年

くにたけ 國武

はるな 陽菜

私は、家の近所のスーパーへ買い物に行つて、精算するのでレジに並んでいました。

「早くしてほしいよね。」

「急いでるんだけど。」

「まだ終わらんと。」

私の隣のレジに並んでいる人たちが小声でコソコソと言っているのが聞こえてきました。私は、一体何のことを言われているのか、とても気になったので、そつと隣のレジを見ました。

隣のレジには、私の祖母と同じ歳くらいのおばあちゃんがいました。そのおばあちゃんは、右腕が不自由らしく、お財布の中からお金がなかなか取り出せなくて、手間取っていました。レジ担当の方も助けるに助けられず、じつとお金が出されるのを待っていました。この状況で時間が掛かっていたので、おばあちゃんの後ろに並んでいる人たちが小声でコソコソと言っていることが分かりました。私は体に障害があつて、とても困つてい

るにも関わらず、周囲の誰もが手助けすることなく、文句だけ言っていることにだんだんと腹が立つて、気の毒に思いました。

私の精算が終わつて、袋に詰めようと移動したら、やつとの思いで精算が終わられたおばあちゃんが少し離れたところにいました。今度は袋詰めにも困っていたようでした。体に障害があるので背負えるリュックサックを持っていたのですが、リュックサックの中に上手く荷物が入れられず、手間取っていました。周囲にいる人たちは、皆その場から去って行きました。私はこの状況がとても悲しくて、おばあちゃんの元へ駆け寄りました。

「良かったら、私がリュックサックに荷物を入れましょうか。上手に入れないかもしれませんが。」

と声を掛けると、おばあちゃんは「あー、良かった。お願いします。」

少し片言な話し方で答えてくれました。私は上手ではないけれども、一生懸命荷物をリュックサックに入れました。そして、おばあちゃんの背中にリュックサックを掛けてあげました。

「お嬢ちゃん、ありがとう。とっても助かったよ。」本当に嬉しそうな笑みで言ってくれました。おばあちゃんは周囲の人たちが優しく接し、困っている時には手助けしたら、生活が楽になって、もっともつと外出する機会が増えるのではないかと思います。

そして、私たちが障害のある方や体の不自由な方に対して、困っている時には見て見ぬふりをするのではなく、思いやりの気持ちを持つてサポートしたら、身勝手な人たちの文句も無くなると思います。

人間は、決して一人では生きていきません。私は今でも、おばあちゃんからの『お嬢ちゃん、ありがとう。とっても助かったよ。』の言葉が忘れられません。

心が通い合うあいさつ
「ありがとう！」

